

## 問題児ほど可愛い？シートKC

## 我が家の使用人紹介（その2）

先月紹介したKCの奥さんが、庭掃除係、食器洗い係、鶏世話係、そして私の早朝ジョギングの後のお茶くみ係のMrs. Sita KCである。カトマンズ北西のバラジュ地区に実家がある。当然のことながら、カーストはKCと同じチェトリーである。

シートの写真をご覧になったことのある方はご存知だと思うが、シートは少なくとも私より年上のように見える。シートは自分の年齢が計算できない。以前美澄がシートのお話を聞いて逆算してみたところ、なんと24歳。絶対にそうは見えないけれど、まだセカンダリースクール（中学校）に通っている妹がいるとなれば、あながち外れた数字じゃない気がする。ネパール人は結構老けるのが早いのかもしれない。シートは学校を途中退学しており、文字が読めないらしい。悲しい現実である。

シートは気が強い。私達がこの家に住み始めて暫くの間、隣近所の奥様方と堀越しに喧嘩している光景をよく見かけた。でもすぐに世間話を再開して、「あそこの家の誰々はあーだこーだ。」としきりに美澄に教えてくれたらいい。美澄がネパールに來たばかりの頃、シートは美澄を庭のあちこちに案内して、庭の草木花の名前をいろいろ教えてくれた。美澄の本当のネパール語の先生はシートである。

そんなシートが、去年の後半くらいから頻繁に寝込んだ。門の外にいたお婆さんと話をした直後に急に体調を崩したり、原因不明の下痢で入院したり。流産した時には暫くかける言葉もなかった。最近では体調も元に戻っていつも通り元気に働いてくれているが、美澄が一時帰国する時に、いちばん心配していたのはシートの体調であった。

4月19日、美澄がネパールを立つその朝、シートが流した涙を私は忘れることができない。一時のこととはいえ、ネパールを離れる日本人にかくも涙してくれるネパール人がいてくれるとは。こうしてハウススタッフから愛される妻を持った私も幸せ者である（おっと話が逸れた）。先月の繰り返しになるが、ハウススタッフには本当に恵まれたと思った。

さて、今もシートは近所の噂話を聞きつけてきては、今度は私に教えてくれる。私も少しはネパール語がわかってきて、話せると知ったシートは容赦なしにいろいろ話しかけてくる。今日も、コテツに「ダウリッ！（走れ）」と叫ぶシートの声が聞こえてくる。ネパール語に類似の発音がないからか、コテツが「コテチュー」と聞こえるのがなんだか可愛らしい。

## ネパールが世界（？）に誇る有名ブランド 模倣文化ここに極まれり

'Reebok（リーボック）'というスポーツ用品のブランドはご存知だろうか。そう、ユニオンジャックをロゴに加えた英国の有名ブランドである。ネパールにはこのリーボックと瓜二つのロゴを持つ有名ブランドがある。ユニオンジャックならぬ、星条旗をロゴに加えたそのブランドは、'Redskin（赤い肌）'と言う。そういえば、'Redneck（赤い首）'っていうのもあったな。それぞれ、インディアンと米国の肉体労働階級を指す用語で、星条旗と妙に調和してしまうブランド（？）名である。

かなりよく見かけるロゴであるから、2月にスポンサー難を理由に無期延期されたカトマンズマラソンのスポンサーになればいいのにと思っている。でも、資金力なさそうなコピーブランドだけに無理かな。去年のアトランタ五輪のマラソン代表のユニフォームも'Redskin'ではなかったし・・・

'Nabisco（ナビスコ）'に対抗した'Nebico（ネビコ）'というパンの商標がある。それにさらに対抗して'Mabaco（マバコ）'ってのもある。'21 Ice Cream'というアイスクリームもある。もうつぶれてしまったが、'KFC'というファーストフードの店もあったらいい。当然のことながら、'Kentucky Fried Chicken'ならぬ'Kathmandu Fried Chicken'であった。

## 投票率90%強の地方選挙 ネパール人の民主主義

現在、ネパールは地方選挙の真っ最中である。5月17日に西部開発地域以西、26日にカトマンズを含む中部、東部開発地域の村落開発委員会(VDC)と都市部、6月20日に全国の郡開発委員会(DDC)の選挙が行われる。識字率40%強のこの国では、各政党のポスターは「木」や「太陽」「金槌」といったシンボルマークが印刷されたポスターがいたる所に貼られる。貼る場所に規制はない。貼った者勝ちでそこら中に貼られる。敵対政党のポスターは貼られたしなから剥がされ、支持政党のポスターにとって代わられる。選挙管理委員会も人海戦術、政府の役人もかり出され、援助の仕事は上がったたりである。山奥の村落まで選挙の実施を知らせて回るのが彼等の仕事であり、通信手段に乏しいネパールならではの事情である。

2大勢力は国民会議派(NC)と共産党(UML)である。支持政党を巡って村は真っ二つに分かれる。互いに足の引っ張り合い、相手が投票に行くのを投石で邪魔したり、投票箱を盗んだり。17日の選挙も円滑に行われなかったところも多く、数日後にやり直し選挙も実施された。この直後に私はポカラに行ったが、ポカラの3つの選挙区の選挙やり直しに出くわし、NCとUMLの支持者の衝突で警察が威嚇射撃を行ったりした。大勢が判明するにつれて、旗色の悪い政党は選挙の無効を叫び、暴れ始める。まるでだだをこねる子供である。今回は、途中経過を見る限りUMLの圧勝ということらしい。

さて、今回の選挙は前回に比べて大荒れだという。1つの理由は中西部を拠点とするマオイスト（毛沢東主義のテロリスト）が選挙無効を訴えて「立候補者は殺す。」と宣言していたからだ。実際に毎日のように負傷者の記事が新聞紙面を飾り、全国72のVDCで立候補者不在の状況が起きてマオイストは勝利宣言。効果的な対策のとれない政府をNCは批判しているが、実はこのマオイストの陰でUMLが糸を引いているとの噂もチラホラである。かなり危ない民主主義だ。

## 私の仕事紹介 (その15) ローカルスタッフに求めるもの

4月下旬から1ヶ月間、健康管理休暇を取った門脇所員に代わり、私が経理の仕事も兼任した。いつも仕事を一緒にやっているケシャブ、ネウパネの兩人に加え、門脇所員がペアを組んでいた隈河、マナダールの2名も同時に使うことになり、その活用には相当頭を悩ませた。隈河さんとは日本語でやれるのでともかく、ただでも忙しかったこの1ヶ月の間、特にマナダールさんの仕事ぶりにはかなりのストレスを感じた。

もう10年以上も事務所で働いていながら、仕事がかなり雑、机の上も散らかしっ放しで平気で帰るし、時に自分の仕事である最後の現金有高照合も最後までやらずに平気で私に現金を渡して帰ったこともあった。しかし何よりも私を激怒させたのは、誰も許可してない買入注文を勝手に出して、結果出来上がった伝票の起案者を私にされたことである。彼はなぜそれをやってはいけないのか全く理解していない。「山田さんが怒るから。」としか理解していないのである。だから同様のケースへの対応はきちんとやるけれど、きっと門脇所員が戻ったら「門脇さんは怒らないから。」と考えてきっとまたやるだろう。

マナダールさんはクラーク採用なので、この程度の能力でも事務所員として食べて行けるだろうが、Programme Officerであるケシャブさんとネウパネさんにはもともと高いレベルのことを期待している。勿論、ネパール政府省庁の許認可手続きは、ネパール語を使う関係上彼等に全面的に依存しなければ仕事が進まないが、私がProgramme Officerに求めているのは、そんな些末なことではなく、自らの手で情報を集め、自らの手で援助案件を発掘し、さらに自らの眼で実施案件をモニターしてゆく能力なのである。都市に住んでいる彼等が農村の貧困問題にどれだけの理解をしているかは定かでないが、JICAのスキームをきちんと理解した上で、具体的な案件形成に繋げて行ってほしいと考えている。日本人の所員は3年程度で異動になるが、彼等はこれからもずっとネパールに残ってゆくのであるから、この国を良くしてゆくためには彼等自身がイニシアチブを取らねばならないと思っている。

勿論、彼等がイニシアチブを取れば何をやってもいいという訳ではない。必要なサポートは私もするし、アドバイスもしたいと思っている。JICAのプロジェクトで何が起きているか、本部が何を狙っているかは、当然彼等にもどんどん伝達しなければならない。そういう視点で見た場合、JICAの文書は日本語の割合が圧倒的に多くて、ローカルスタッフの有効活用を謳いながらも実際そうした状況には全くないということを感じている。

4月30日、私は事務所の部屋を移り、ケシャブ、ネウパネ兩名と相部屋となった。これで今まで以上に彼等の育成を考えることになった。私のネパールでの滞在もはや折り返し地点を過ぎた今、彼等に何を残してゆけるかが大きな課題である。

## そんなおてで顔撫でないで サネパチョークの床屋さん

異国で生活していつも身構えてしまうのが、床屋に入る時である。日本語でだって髪型をどうしてほしいか説明するのは大変なのに、英語で説明するのはもっと大変、ましてやネパール語なら何をかいわんやである。ネパールに来た当初、私はヒマラヤホテルの床屋に通っていた。一応英語が通じるからだ。その分料金は100ルピー強とちょっと高めだったが。丸坊主にした昨秋からは、美澄が電気バリカンでカットしてくれていた。電気バリカンはヒットだった。美澄はヘアドレッサーの才能があると思う。その美澄が一時帰国した以上、髪は床屋で切らねばなるまい。ネパール語もだいたい覚えだし冒険もしてみようと、私は近所のサネパチョーク(広場)にある床屋に出かけた。

鏡と椅子しかない店内。壁にはヒンドゥーの神々のイラスト、さらには日本の床屋にもあるヘアスタイルのサンプル写真が幾つか貼られていた。夕方訪れたのだが、近所の若者がたむろしていて、店内は客の数よりもギャラリーの数の方が多い、異様な雰囲気だった。カットしてくれたにいちゃん、さすが職業カーストで手慣れた手つき。これならホテルといい勝負だと思った。困ったのは、彼等のネパール語が全く理解できなかったことだ。後でKCに聞いたところ、彼等はインド人だそうだ。

ネパールの床屋は、カットの後にシャンプーはやらない。ただ髪を手でさがさ掻いて切った毛をはらい落とすだけである。カットも終わり、さあもう帰ろうかと思っていたら、何を思ったかこのにいちゃん、日本式のマッサージを始めた。肩もみなんて日本の床屋のやる過剰サービスと全く同じ。但しツボを見事に外しておりただ痛いだけ。マッサージは顔面にまで及び、しつこいくらいに撫でまわされた。おい、お前その左手でお尻も拭いてるだろうが、やめてくれ〜〜！さらに両腕を雑巾絞りされた時にはさすがに悲鳴を上げた。「痛いからやめてくれ！」台湾の床屋を思い出す。外のガラスがマジックミラーになっている台湾の床屋は、お姉さま達がスゴいサービスをしてくれるそう(勿論、うぶな私は行ったことがない)。

こんな見よう見まねの下手な過剰サービスを勝手にされ、50ルピー請求された。放心状態の私は言われるままに払ってしまった。後でKCに聞いたところ、カットだけなら20ルピーだそうだ。次回からはマッサージはいらぬとはっきり言おう。

帰宅した私がすぐにシャワーを浴びて、顔をよく洗ったことは言うまでもない。

## 編集を終えて・・・

★先月もお伝えした計画停電、今も継続中です。中2日のローテーションで夕方3時間程の停電となります。事務所にいる時は真っ暗で仕事ができなくなり、慌てて自家発電器を始動させます。事務所と自宅は同じ日には停電になりません。帰ってみるとサネバ地区一帯が真っ暗で、露店のロウソクの明かりがとても幻想的です。勿論自宅でも自家発電器は欠かせません。それに雨季入り近くで蚊が大量に発生しており、夜の暗闇で適当に拍手を打っても蚊が殺せるといった状態で、蚊取線香もこの時期の必須アイテムです。街灯など殆ど見られないこの国では、夜がことの他暗く感じます。闇に紛れる野良犬、そして地方選挙間近で運動に精を出す人々のデモ行進、それに最近ではカトマンズでも活動を始めたマオイスト。暗闇は怖い。まだ美澄がいる頃、夕方からダクシンカリ道路にジョギングに出かけ、周りに田舎しかない場所で道に迷って帰りが遅くなったことがありました。美澄には泣かれ、自分の判断の甘さを反省もしましたが、やっぱり電気も何もない場所で夕暮れを迎える心細さは、経験した者しかわからないでしょう。加えて、この国はお化けの話が多いのです。シータやKCにお化けがとりついて話や、金縛り、超常現象等枚挙にいとまがありません。日本にいた頃は、部屋の電気を全部消して寝るのも平気でしたが、今はとてとても。寝室の明かりは1つは必ず点けて寝ます。(浩司)